

授業科目 (ナンバリング)	生薬学 I (N4C212)			担当教員	宇都 拓洋		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
生薬の起源、薬学の歴史的な背景等を学習し、医薬品として生薬が担って来た役割を認識することを目標とする。また、局方収載生薬や麻薬関連生薬のうち約 100 種を選び、基原植物の学名、使用部位、産地、薬効成分、配合漢方薬等の生薬に関する基礎知識を学習し、それらを医療の場で活用出来る知識を習得することを目標とする。							①②⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 漢方処方における生薬の役割を述べるができる。 (2) 生薬の科名、使用部位、有用成分、薬効等を説明できる。				定期試験 確認試験	80% 20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は確認試験と定期試験を用いて行う。 ・確認試験は「代表的な生薬の基原、薬用部位、薬効、成分」を範囲とする。 ・全講義時間の3分の1を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。 ・講義中に行う復習問題、確認試験、定期試験は、解答をポートフォリオで示すことによりフィードバックする。 							
授業の概要							
<p>本講義は、まず生薬に関する基礎（歴史、生産と流通、基原植物の形態と分類等）を学習する。次に生薬各論において植物由来の生薬について使用部位別に学習を進め、それらの基原植物名、学名、使用部位、産地、薬効成分を学ぶ。さらに動物、鉱物生薬を学習する。講義中に生薬標本や本学附属薬用植物園を含めた薬用植物園を紹介することで学習の理解度を深める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：「パートナー生薬学（改訂第3版増補）」竹谷孝一/木内文之/小松かつ子編集、南江堂 参考書：「薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬100」日本薬学会編、東京化学同人 「カラーグラフィック薬用植物(第3版)」滝戸道夫・指田豊編、廣川書店 指定図書：上記の教科書と同じ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に次回の講義内容を指示するので、教科書を読んで予習しておくこと。 ・講義後、オフィスアワー、メール等で積極的に質問を行って欲しい。 ・薬用植物園や生薬標本を自分で観察し、講義で扱った生薬に対する理解を深めて欲しい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	生薬学の基礎①	生薬とは何か 医薬品としての生薬とその特徴 生薬の歴史	p3～20	
2	生薬学の基礎②	現代の生薬研究 生薬の生産 世界における生薬の流通	p21～36 p61～70	316, 317, 322-324
3	生薬学の基礎③ 植物生薬① 花部を用いる生薬	加工・修治 生薬の基原植物の形態と分類 紅花、サフラン、茵陳蒿等	p21～36 p131～356 の 該当生薬のペ ージ	316, 317, 322-324 315, 316, 319, 320, 322, 324
4	植物生薬② 根を用いる生薬 1	黄耆、黄芩、遠志、セネガ、桔梗、葛根、柴胡等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
5	植物生薬③ 根を用いる生薬 2	人参、紅参、地黄、芍薬、牡丹皮、当帰、麦門冬等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
6	植物生薬④ 根茎を用いる生薬	黄連、生姜、乾姜、川芎、蒼朮、白朮、ウコン、竹 節人参、大黄等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
7	植物生薬⑤ 根および根茎を用い る生薬	カノコソウ、甘草、ゲンチアナ、細辛、トコン、竜 胆、ロートコン等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
8	植物生薬⑥ 塊茎を用いる生薬	延胡索、沢瀉、半夏等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
9	植物生薬⑦ 樹皮を用いる生薬	黄柏、桂皮、厚朴、杜仲、キナ皮等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
10	植物生薬⑧ 葉を用いる生薬	ウワウルシ、センナ、ジギタリス、蘇葉等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
11	確認試験	1～10 回までの確認試験	1～10回までの 講義内容	315, 316, 319, 320, 322, 324
12	植物生薬⑨ 果皮や果実を用いる 生薬	山椒、陳皮、橙皮、茴香、當実、枳実、山梔子、大 棗等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
13	植物生薬⑩ 全草や地上部を用い る生薬	ゲンノショウコ、十薬、千振、薄荷、麻黄等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
14	菌核を用いる生薬 動物生薬・鉱物生薬	猪苓、茯苓等 熊胆、牛黄、竜骨、牡蠣等	p134-135, p357～376 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 319, 320, 322, 324
15	法的に規制される生 薬	阿片、コカヨウ、大麻等	p131～356 の 該当生薬のペ ージ	315, 316, 318-320, 324
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。